

2023年3月期 第2四半期決算

2022年10月28日

 大同特殊鋼株式会社

2022年度 第2四半期決算 (2022年4月～2022年9月)

■ 22年上期決算の概要

- ▶自動車減産の長期化により、全体の売上数量は大幅に減少。
- ▶他方、原材料・エネルギー価格高騰に対して、販売価格の是正に取り組んだことにより売上高は増加。
- ▶ステンレス鋼を中心に内容構成も改善。

	2021年 上期実績			2022年 上期実績			(千 t・億円)	
	1Q	2Q	合計	1Q	2Q	合計	前年差	7/29 予想差
	鋼材売上数量	322	312	634	280	260		
売上高	1,312	1,240	2,552	1,377	1,442	2,819	267	19
営業利益	105	87	192	102	130	232	40	37
経常利益	118	88	206	113	128	241	35	41
特別損益	-	▲ 4	▲ 4	-	▲ 4	▲ 4	0	-4
法人税他	▲ 42	▲ 32	▲ 74	▲ 14	▲ 40	▲ 54	20	-9
親会社株主に帰属する 当期純利益	76	52	128	99	84	183	55	28

■ セグメント別売上高・営業利益(前年同期差)

(億円)

	2021年度実績		2022年度実績					
	上期		1Q		2Q		上期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
特殊鋼鋼材	932	15	506	1	522	41	1,028	42
機能材料・ 磁性材料	948	139	544	75	552	59	1,096	134
自動車部品・ 産業機械部品	465	31	238	18	257	16	495	34
エンジニアリング	87	▲ 7	38	▲ 1	45	5	83	4
流通・サービス	120	14	51	9	66	9	117	18
合計	2,552	192	1,377	102	1,442	130	2,819	232

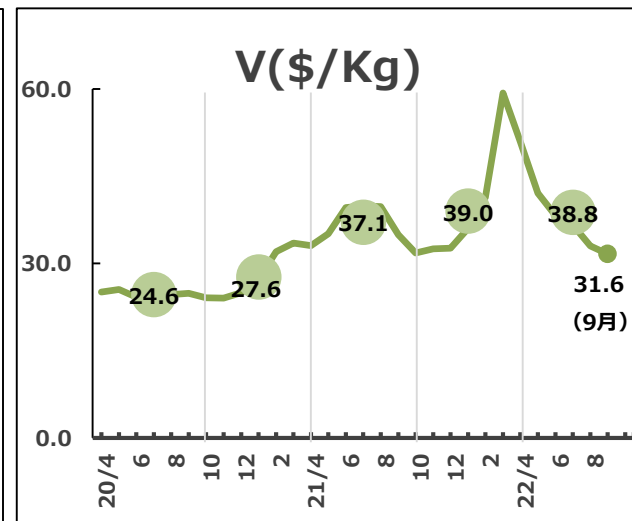
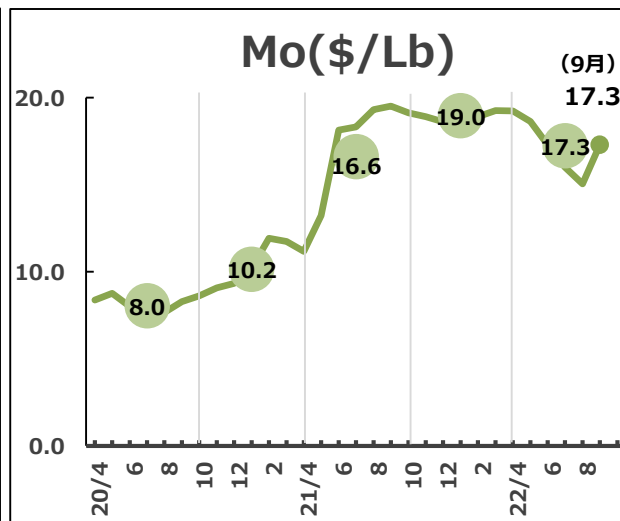
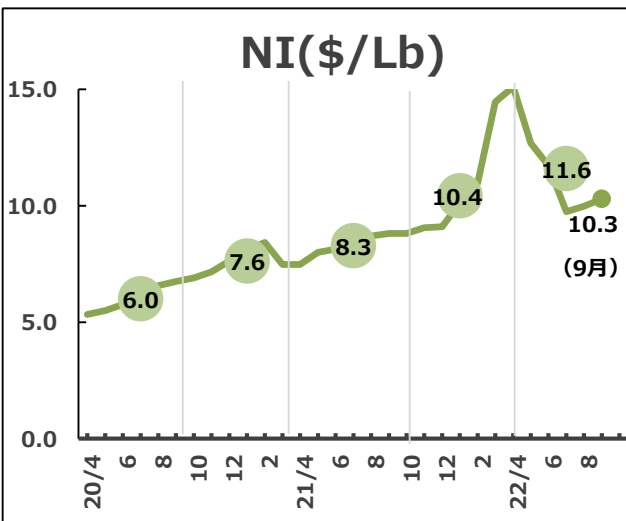
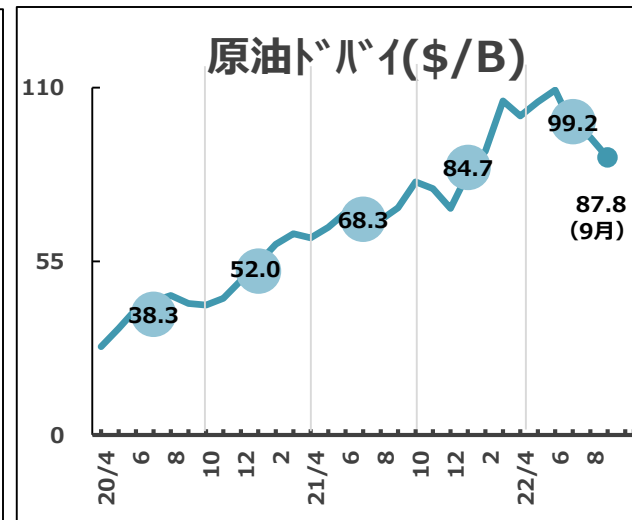
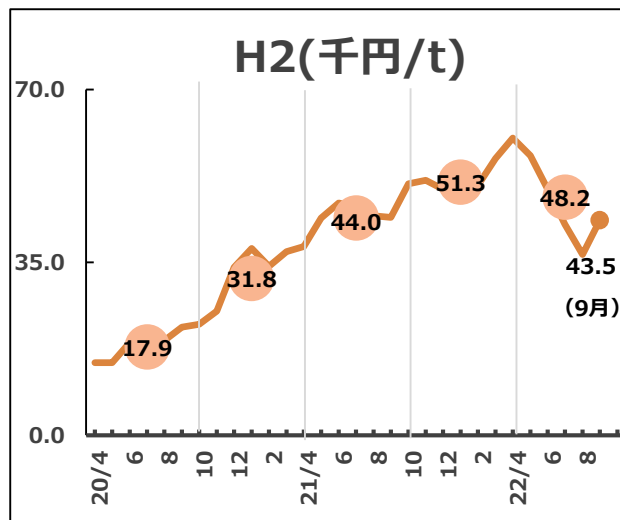
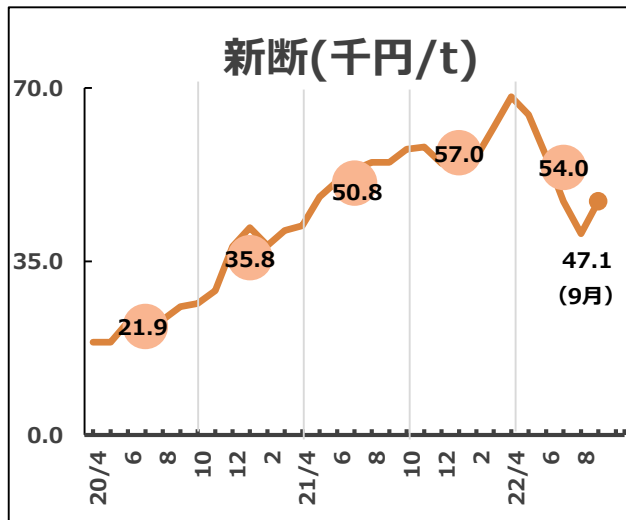
前年差		7/29 予想差	
売上高	営業利益	売上高	営業利益
96	27	7	29
148	-5	15	4
30	3	-14	1
-4	11	-4	2
-3	4	15	1
267	40	19	37

(千 t)

鋼材売上数量 (単体)	634	280	260	540
----------------	-----	-----	-----	-----

-94	-7
-----	----

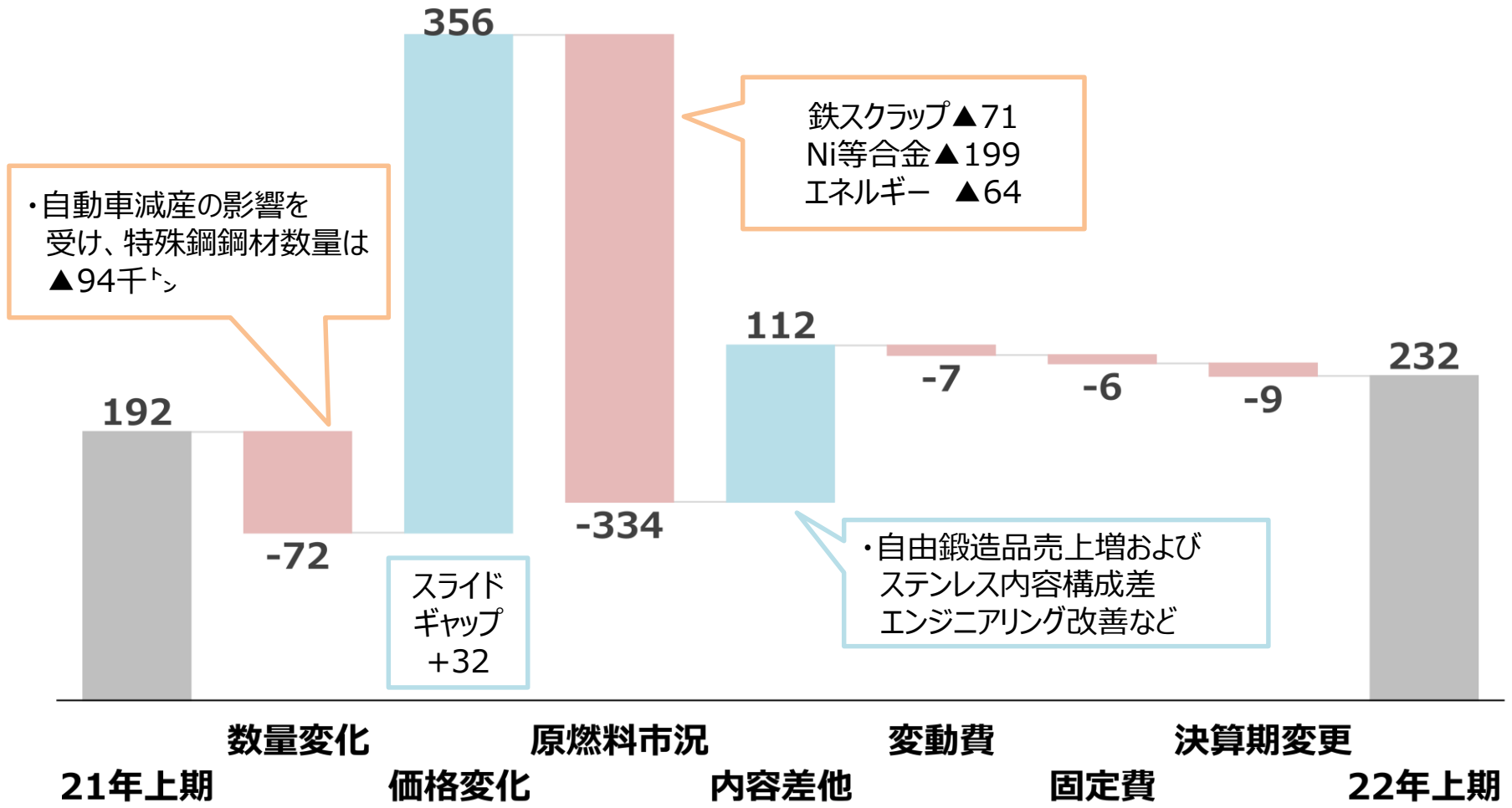
原材料価格



22年上期 営業利益の変化要因(前年同期差)

営業利益変化要因 (前年同期差)

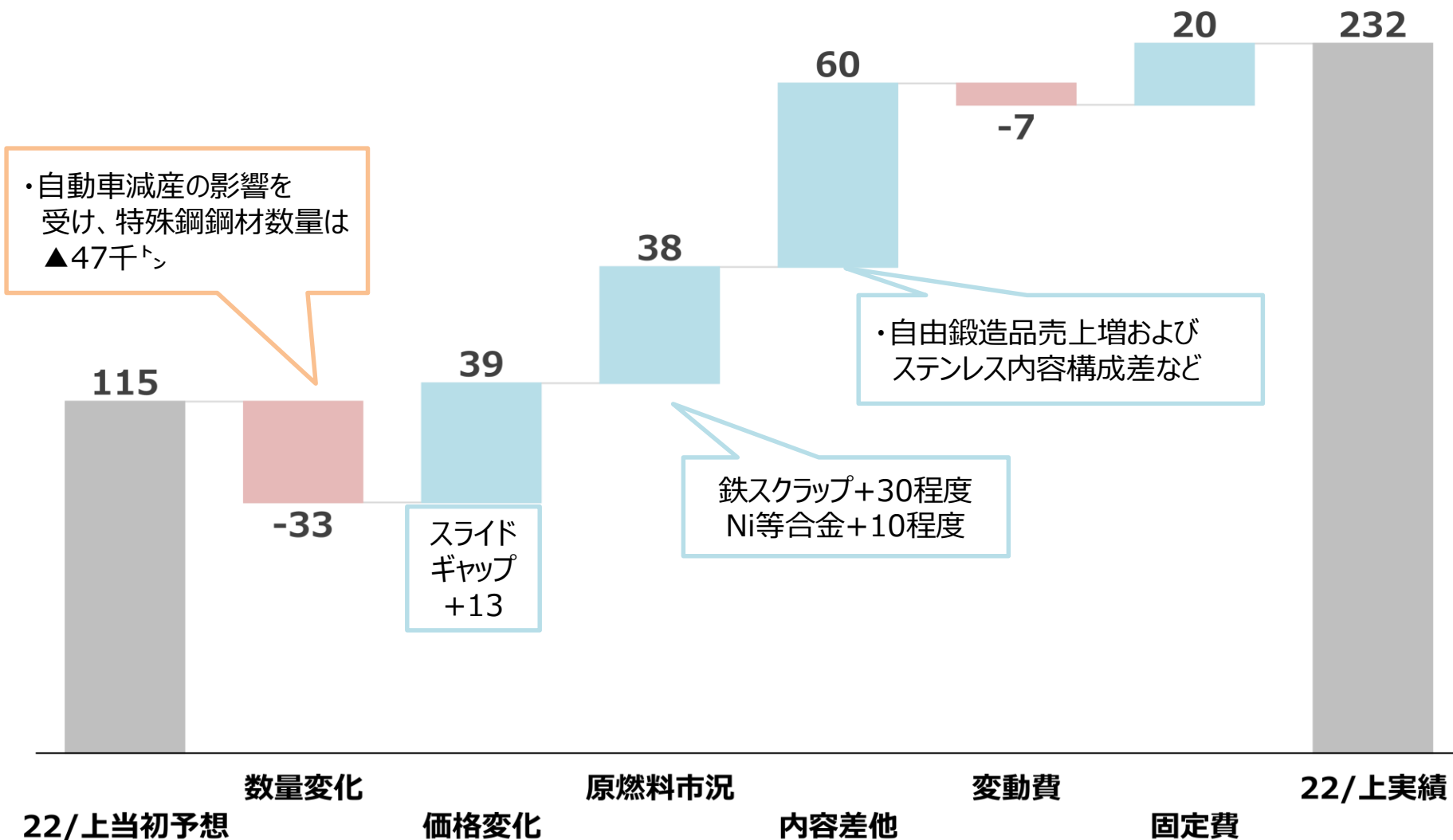
(億円)



22年上期 営業利益の変化要因(4/28予想差)

営業利益変化要因 <当初予想(4/28)差>

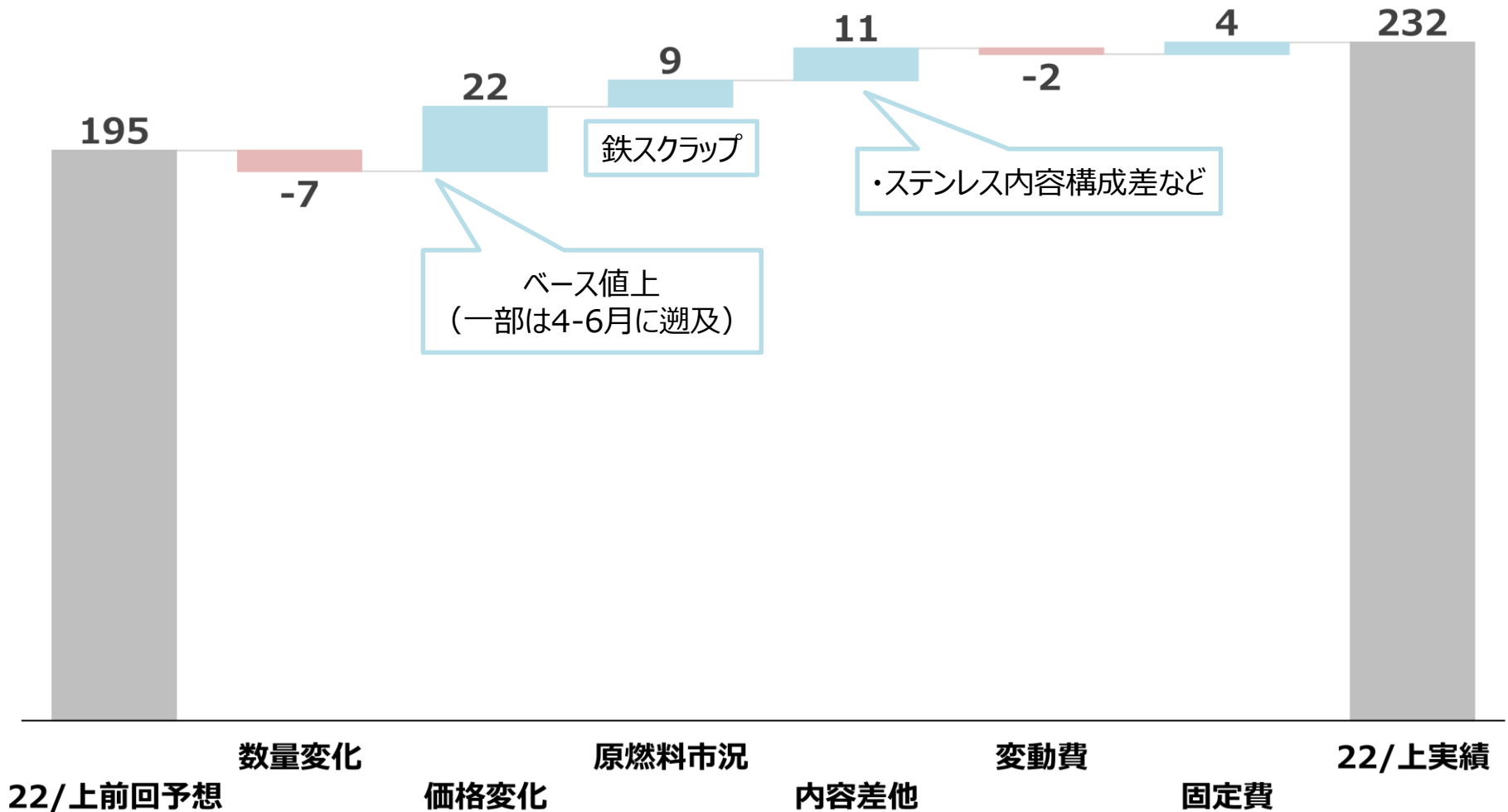
(億円)



22年上期 営業利益の変化要因(7/29予想差)

営業利益変化要因 <前回予想(7/29)差>

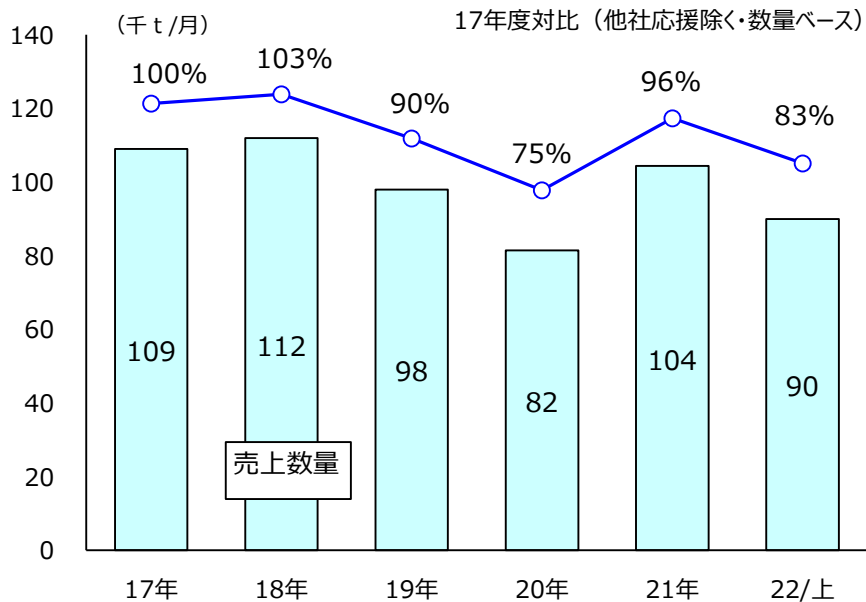
(億円)



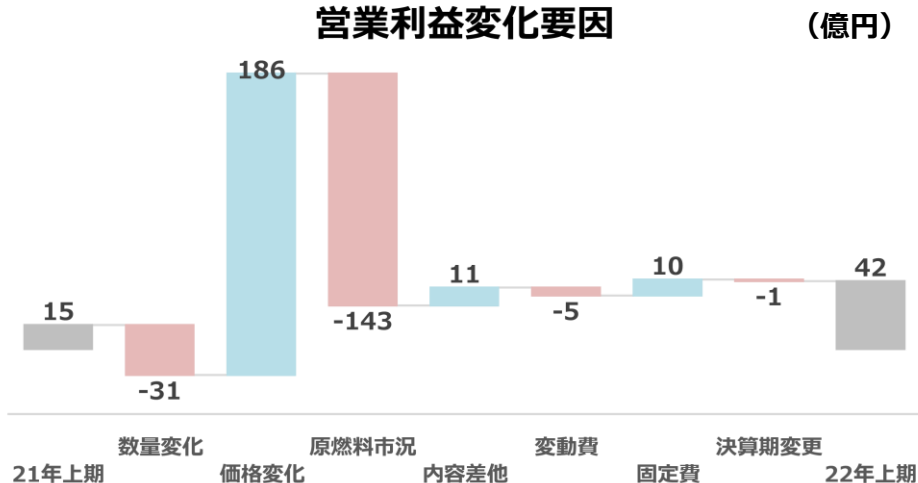
■ 特殊鋼鋼材概況

(億円)					
	21年 上期	22年上期 7/29予想	22年 上期	前年差	7/29 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	932	1,021	1,028	96	7
営業利益	15	13	42	27	29
スライドギャップ*	-33	-3	-1	32	2

鋼材売上数量(単体)



営業利益変化要因



POINT 1

自動車減産継続により数量減も、鉄屑スライドギャップの縮小、固定費の圧縮などにより、上期の営業利益は42億円となった。

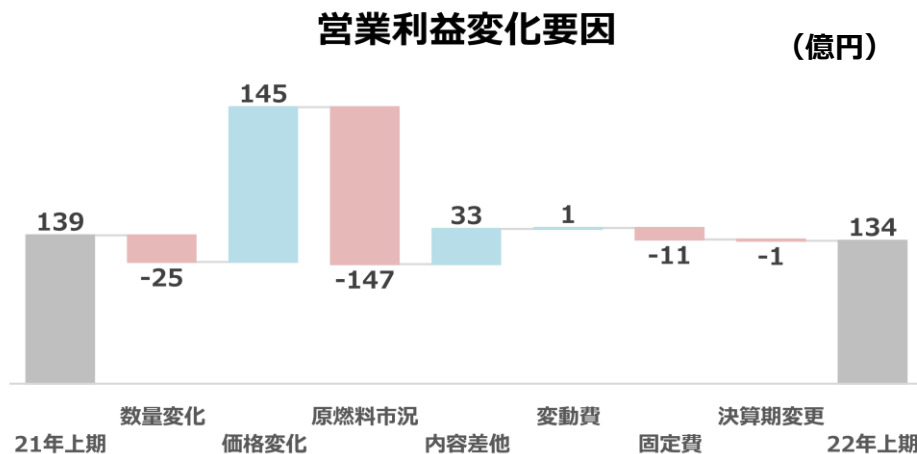
POINT 2

エネルギーコストなどのベース価格改善は計画通り進捗。

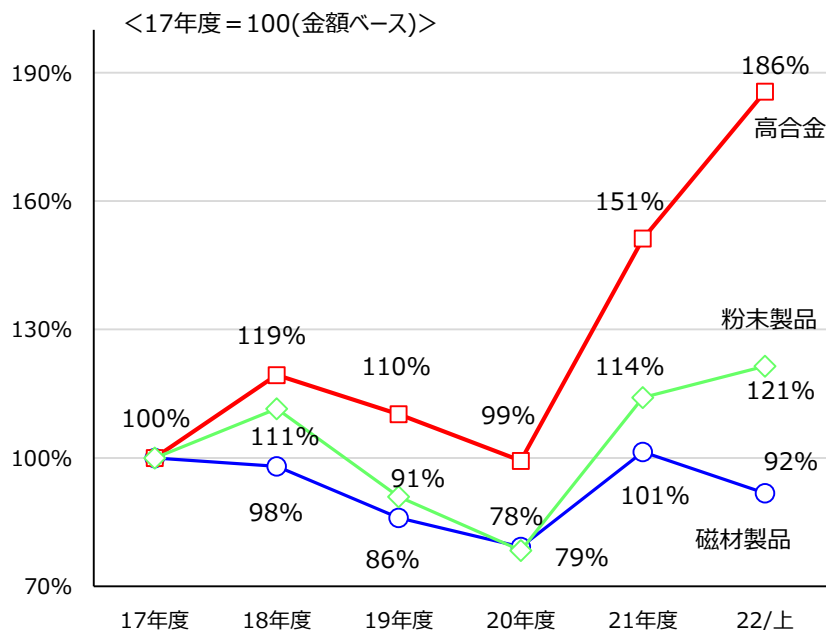
機能材料・磁性材料概況

(億円)

	21年 上期	22年上期 7/29予想	22年 上期	前年差	7/29 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	948	1,081	1,096	148	15
営業利益	139	130	134	-5	4



<高合金・磁材製品・粉末製品 (売上高)>



POINT 1

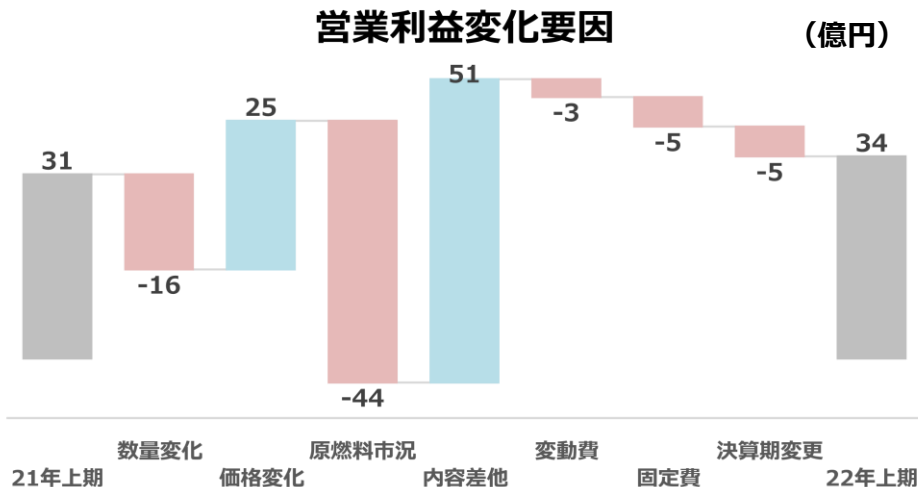
自動車向けの減少と足元はニッケル先安感による買い控えにより、ステンレスの出荷数量は弱含み。

POINT 2

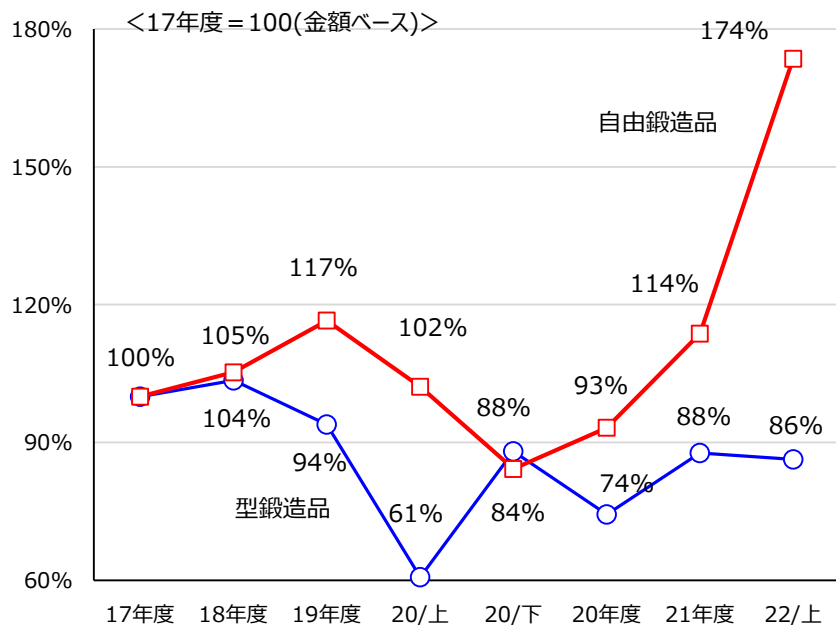
ただし、半導体関連の数量が伸長したことなどにより、内容構成は良化。ニッケル高騰によるコスト増は販売価格に反映し、営業利益は134億円となった。

自動車部品・産業機械部品概況

	(億円)				
	21年 上期	22年上期 7/29予想	22年 上期	前年差	7/29 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	465	509	495	30	-14
営業利益	31	33	34	3	1



<型鍛造品・自由鍛造品 (売上高)>



POINT 1

型鍛造品などの自動車部品は数量減も、自由鍛造品で半導体やエネルギー関連などの製品需要が堅調に推移し、上期の営業利益は34億円となった。

POINT 2

円安環境により足元の自由鍛造品受注は高位継続。最大生産による利益拡大を指向。

2023年3月期 通期見通し

22年度見直し計画の概要

環境認識

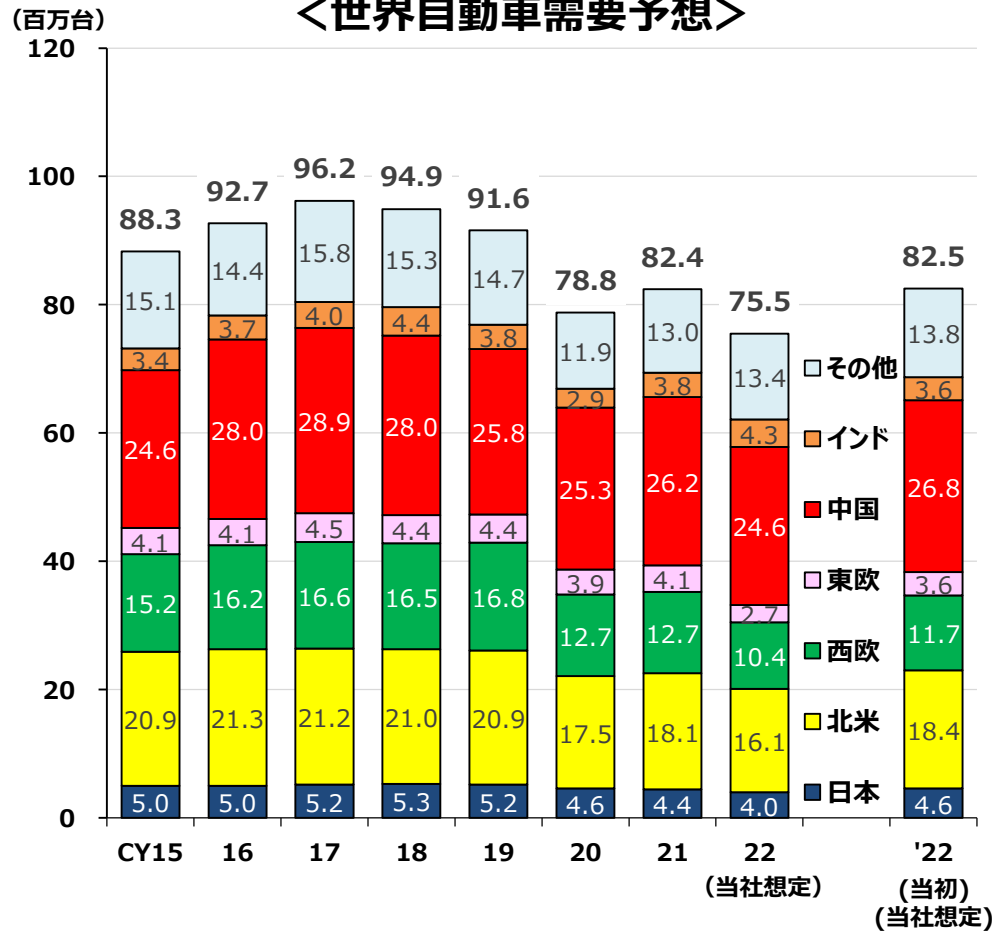
- ◆日本においては、引き続きコロナ禍からの緩やかな景気持ち直しが期待されるが22年度後半は、欧米・中国経済の景気減速による外需の減少が見込まれ**年初想定していた下期の大幅な数量回復は難しい認識。**
- ◆また、世界的な物価上昇による消費の落ち込み、部材不足による自動車生産の回復遅れ、地政学リスクの発生など想定外の変動リスクを内包した経営環境である。

基本方針

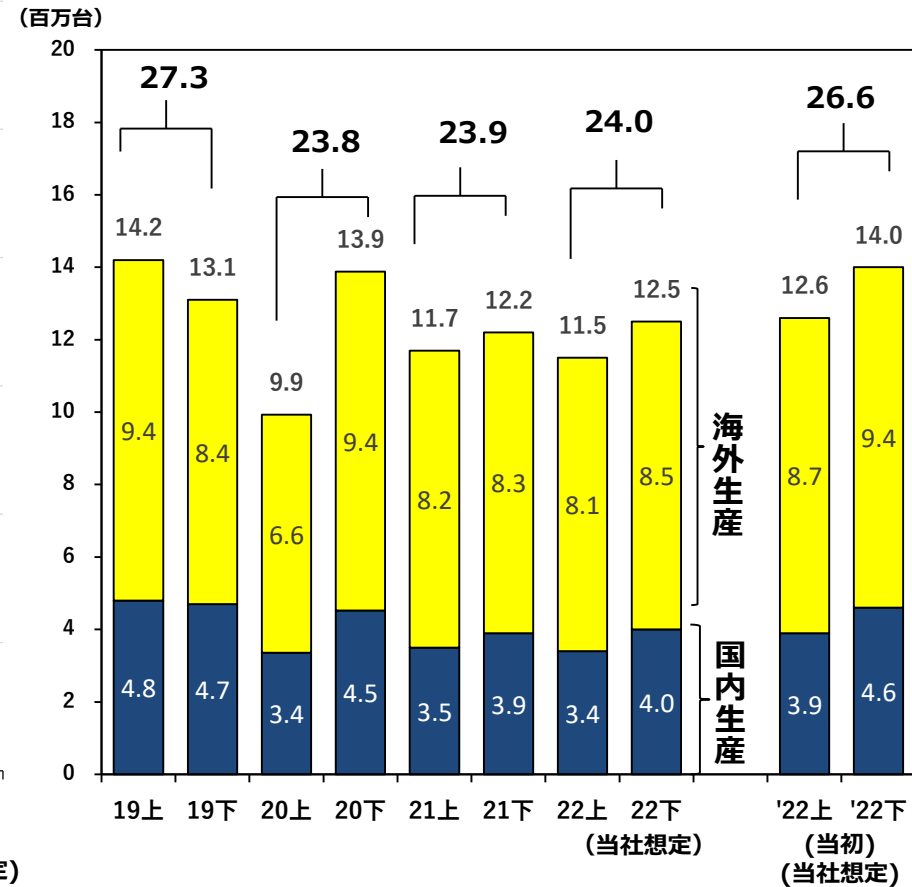
- 原材料、資源、エネルギーコスト等の価格上昇分について、迅速な価格転嫁を行い、適正マージンを確保していく。
- 経営環境変化へ柔軟に対応した事業運営を実施する。また、物価上昇下において、棚卸資産圧縮などのキャッシュ・フロー改善施策を遂行する。
- 円安環境下を活かし、自由鍛造品を中心とした海外需要を捕捉する。

■ 主要市場の動向 <自動車関連需要>

<世界自動車需要予想>



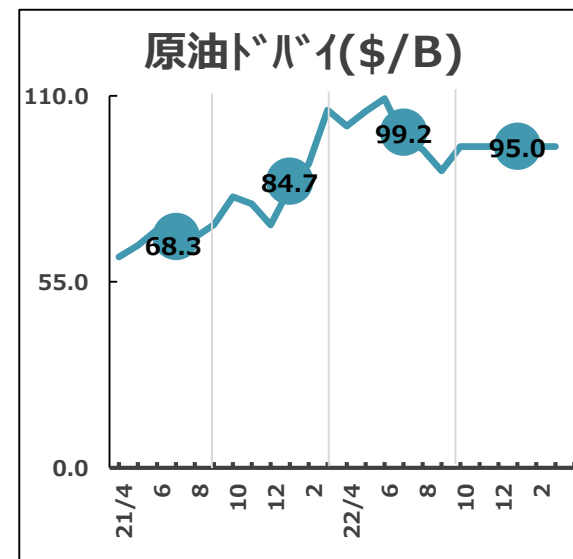
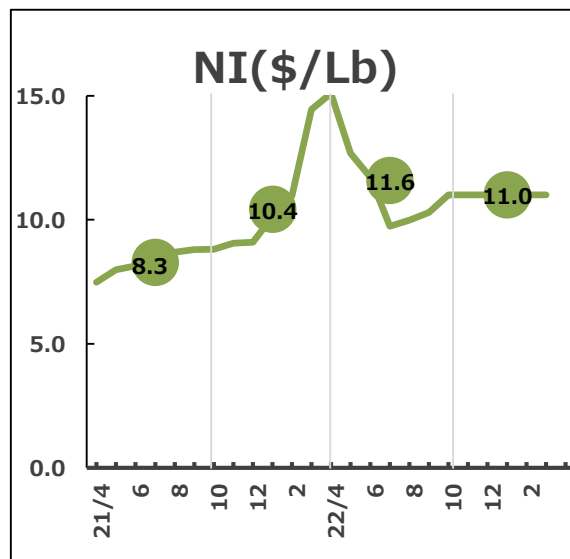
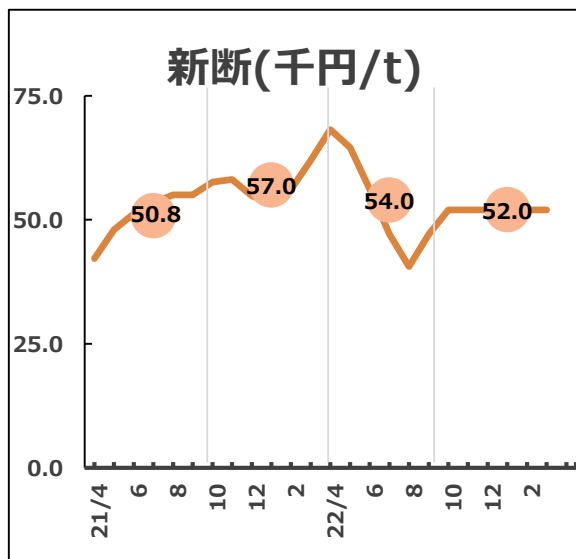
<日系自動車生産見通し>



半導体等部材不足による供給制約を受け当初想定は下回る水準

22年度 利益計画の前提(市況)

			21年度実績	22/上実績	22/下計画前提	
					4/28予想差	
鉄スクラップ [°]	中部 H2 建値	千円/ t	47.6	48.2	48.0	-13.0
	中部 新断建値		53.9	54.0	52.0	-13.0
ニッケル	LME	\$/ L b	9.3	11.6	11.0	-3.0
原油	ドバイ	\$/ B	76.6	99.2	95.0	-5.0
為替レート	TTM	円/ \$	113.4	134.0	140.0	+20.0



■ 22年度 連結業績見通し

- ▶前年対比では、自動車生産調整の長期化による数量減や原燃料価格の高騰を売上内容構成良化、販売価格の是正によって挽回し、増収増益の見通し。
- ▶4/28予想対比では売上数量減はあるものの、売上内容構成の良化や鉄スクラップやニッケル市況が当初予想の前提を下回ること増益の見通し。

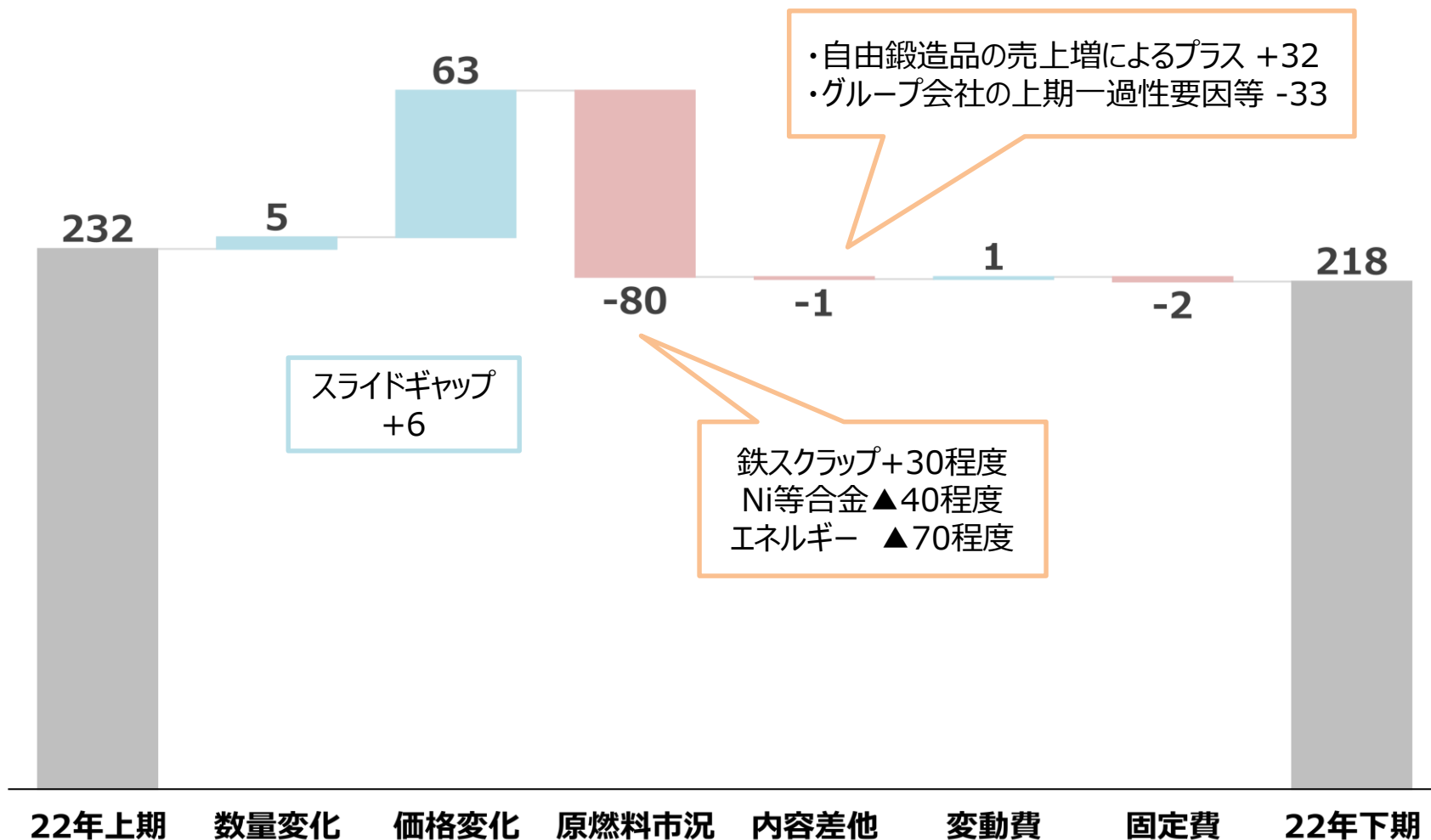
(千t・億円)

	2021年度実績			2022年度見通し			前年比	4/28 予想比
	上期	下期	合計	上期	下期	合計		
鋼材売上数量	634	619	1,253	540	550	1,090	-163	-137
売上高	2,552	2,745	5,297	2,819	2,881	5,700	403	-300
営業利益	192	178	370	232	218	450	80	110
経常利益	206	186	392	241	219	460	68	110
特別損益	▲ 4	19	15	▲ 4	-	▲ 4	-19	-4
法人税他	▲ 74	▲ 64	▲ 138	▲ 54	▲ 62	▲ 116	22	-16
親会社株主に帰属する 当期純利益	128	141	269	183	157	340	71	90

22年下期 営業利益の変化要因(上期差)

22年下期 営業利益変化要因 (上期差)

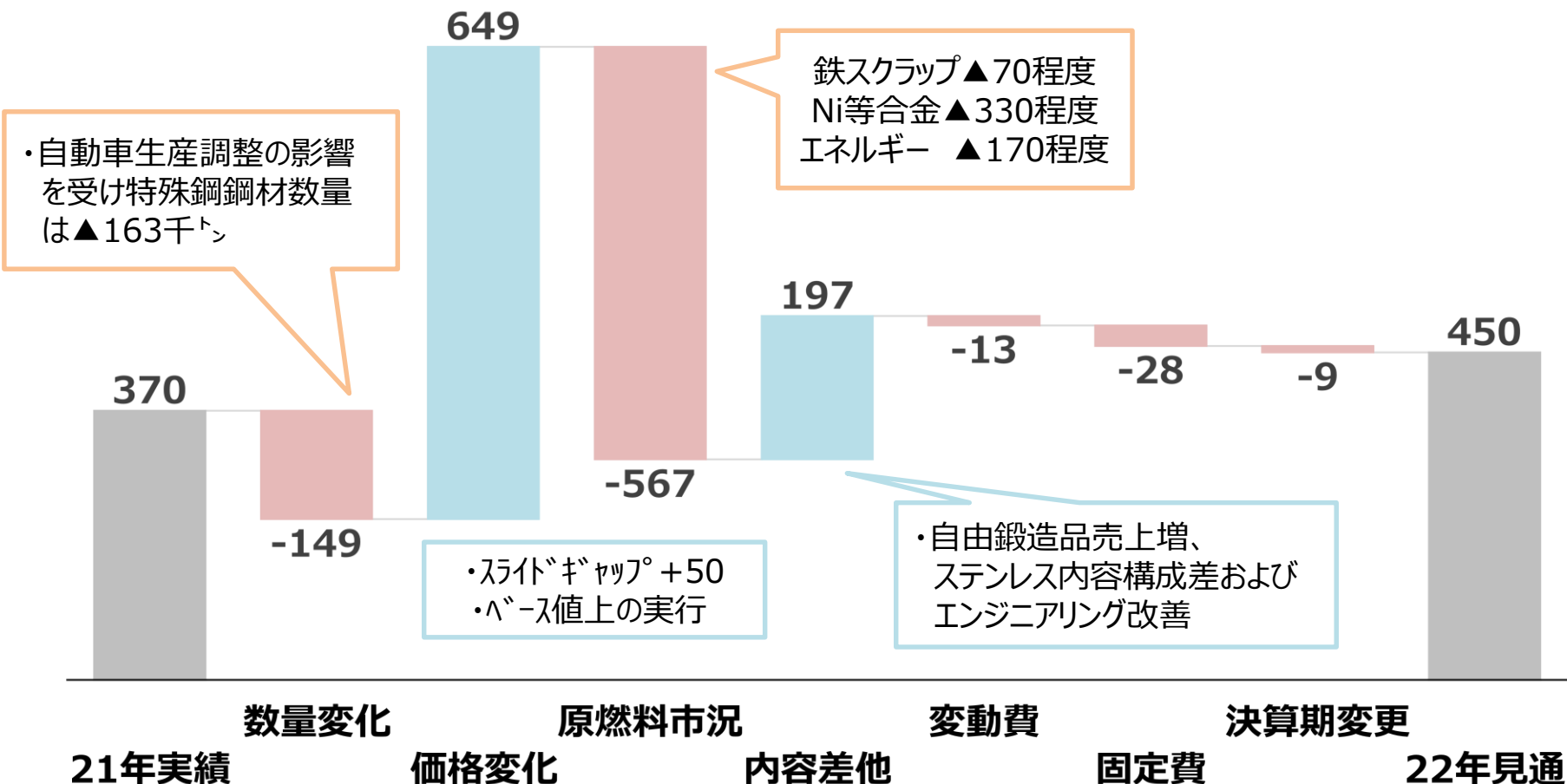
(億円)



22年度 営業利益の変化要因(前年度差)

営業利益変化要因 (前年度差)

(億円)



■ セグメント別売上高・営業利益(前年差・予想差)

(億円)

	2021年度実績		2022年度見通し						前年差		4/28予想差	
	年間		上期		下期		年間		売上高	営業利益	売上高	営業利益
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益				
特殊鋼鋼材	1,978	38	1,028	42	1,072	38	2,100	80	122	42	-120	70
機能材料・ 磁性材料	1,976	267	1,096	134	1,054	106	2,150	240	174	-27	-220	-15
自動車部品・ 産業機械部品	925	50	495	34	555	56	1,050	90	125	40	20	45
エンジニアリング	182	▲ 13	83	4	97	6	180	10	-2	23	-25	5
流通・サービス	236	28	117	18	103	12	220	30	-16	2	45	5
合計	5,297	370	2,819	232	2,881	218	5,700	450	403	80	-300	110

(千t)

鋼材売上数量 (単体)	1,253	540	550	1,090	-163	-137
----------------	-------	-----	-----	-------	------	------

■ セグメント別概況（特殊鋼鋼材・機能磁性・自動車産機）

特殊鋼鋼材

(億円)

	21年度 合計	22年度		合計	前年差	4/28 予想差
		上期	下期			
売上高	1,978	1,028	1,072	2,100	122	-120
営業利益	38	42	38	80	42	70
スライドキップ°	-45	-1	6	5	50	16

POINT

・自動車生産調整の長期化により、鋼材売上数量は当初予想対比マイナス。一方で鉄スクラップ価格の下落および固定費を中心としたコスト改善により損益改善。

機能材料・磁性材料

(億円)

	21年度	22年度		合計	前年差	4/28 予想差
		上期	下期			
売上高	1,976	1,096	1,054	2,150	174	-220
営業利益	267	134	106	240	-27	-15

POINT

・半導体関連の数量増により内容構成の良化も、ステンレスの数量の減少により、計画対比減益を想定。

自動車部品・産業機械部品

(億円)

	21年度	22年度		合計	前年差	4/28 予想差
		上期	下期			
売上高	925	495	555	1,050	125	20
営業利益	50	34	56	90	40	45

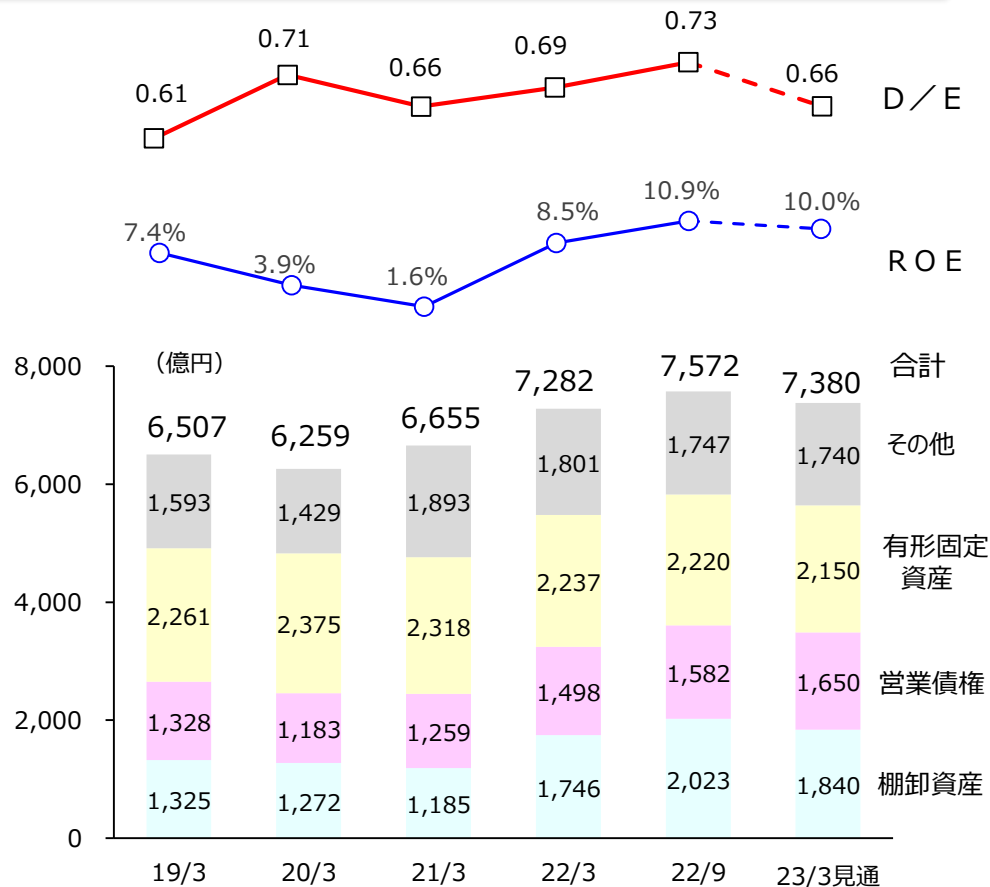
POINT

・自動車向け数量減も、自由鍛造品の受注が好調に推移し損益は大幅上振れ。

■ 総資産、有利子負債、D/Eレシオ

- ・原材料・エネルギー市況高騰、高付加価値品の成長による営業債権および棚卸資産の増加を主要因として総資産は増加。
- ・効率生産による棚卸資産圧縮、キャッシュ・フロー改善のための諸施策に取り組むことで資産効率を改善する。

	(億円)			23/3 見通
	22/3	22/9	前期差	
流動資産	3,917	4,257	340	4,170
現預金	581	568	-13	570
営業債権	1,498	1,582	84	1,650
棚卸資産	1,746	2,023	277	1,840
固定資産	3,365	3,315	-50	3,210
有形固定資産	2,237	2,220	-17	2,150
投資有価証券	865	806	-59	800
資産合計	7,282	7,572	290	7,380
負債	3,632	3,777	145	3,510
有利子負債	2,291	2,501	210	2,320
純資産	3,650	3,795	145	3,870
自己資本	3,297	3,430	133	3,500
非支配株主持分	353	365	12	370
負債純資産合計	7,282	7,572	290	7,380



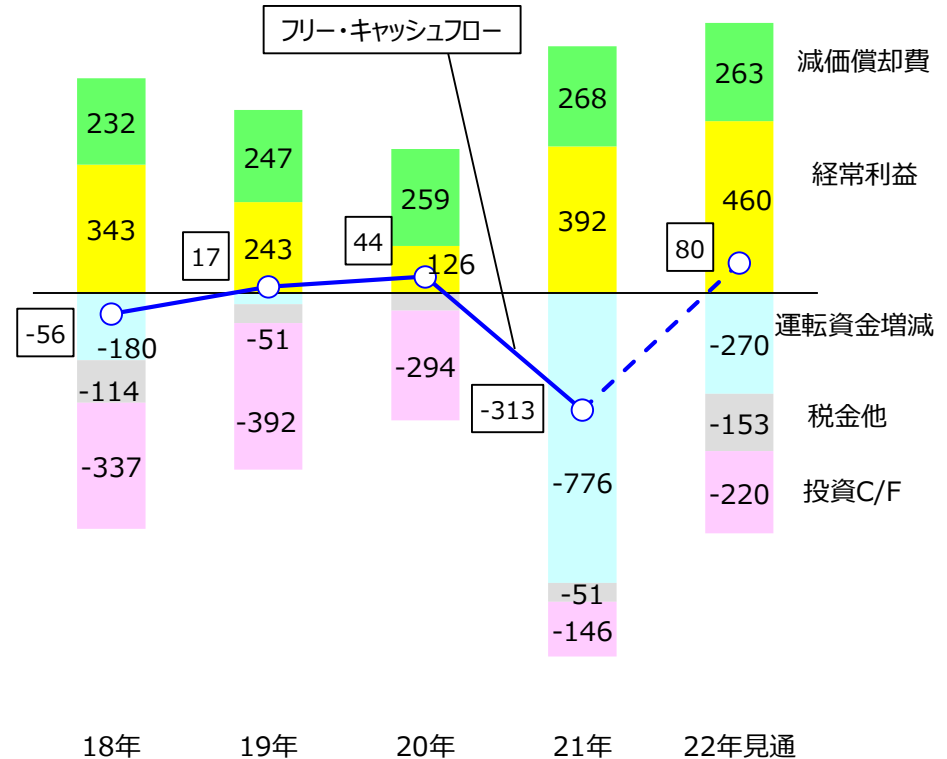
■ キャッシュ・フロー

- ・21年度から22年上期までは原材料、エネルギー価格高騰等による運転資金増加によりキャッシュアウトが継続。
- ・22年下期からは利益確保、棚卸資産圧縮などの運転資金の改善でフリー・キャッシュフローは黒字化を見込む。

(億円)

		21年度		22年度		
		上期	年間	上期	年間見通	
営業 C/F	経常利益	206	392	241	460	
	減価償却費	135	268	130	263	
	運転 資金	売掛金	-105	-239	-69	-152
		買掛金	-60	-28	-39	-24
	増減	棚卸資産	-220	-509	-257	-94
			-385	-776	-365	-270
	税金他	-48	-51	-82	-153	
		-92	-167	-76	300	
投資 C/F	設備投資	-94	-191	-101	-220	
	その他	-14	45	-4	0	
		-108	-146	-105	-220	
	フリーキャッシュフロー	-200	-313	-181	80	

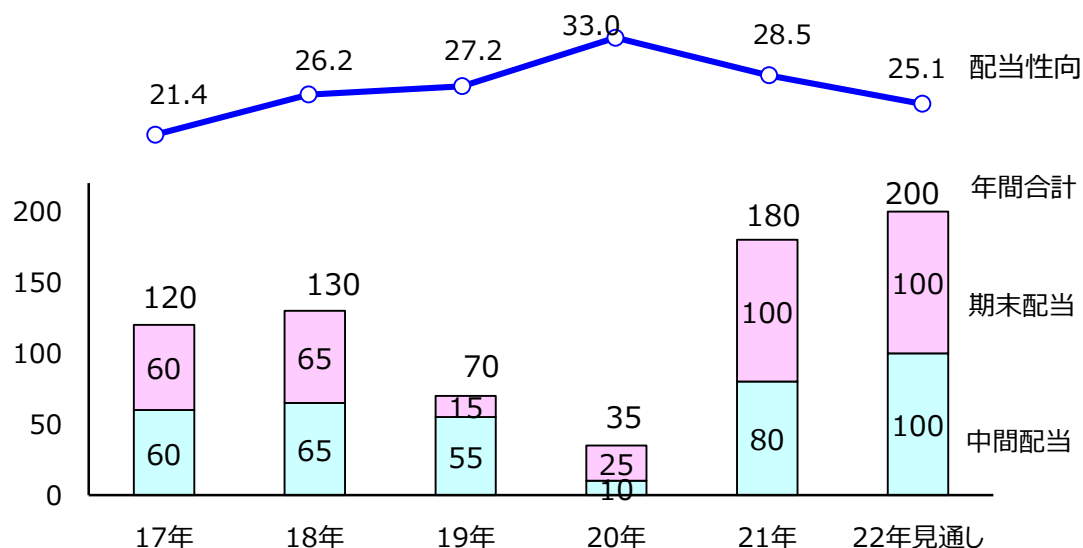
(億円)



■ 配当について

	2021年度		2022年度（見通し）	
	中間期	通期	中間期	通期
経常利益（億円）	206	392	241	460
当期純利益（億円）※	128	269	183	340
配当（円/株）	80.0	180.0 （期末 100.0）	100.0	200.0 （期末 100.0）
配当性向（%）	26.6	28.5	23.3	25.1

※親会社株主に帰属する当期純利益

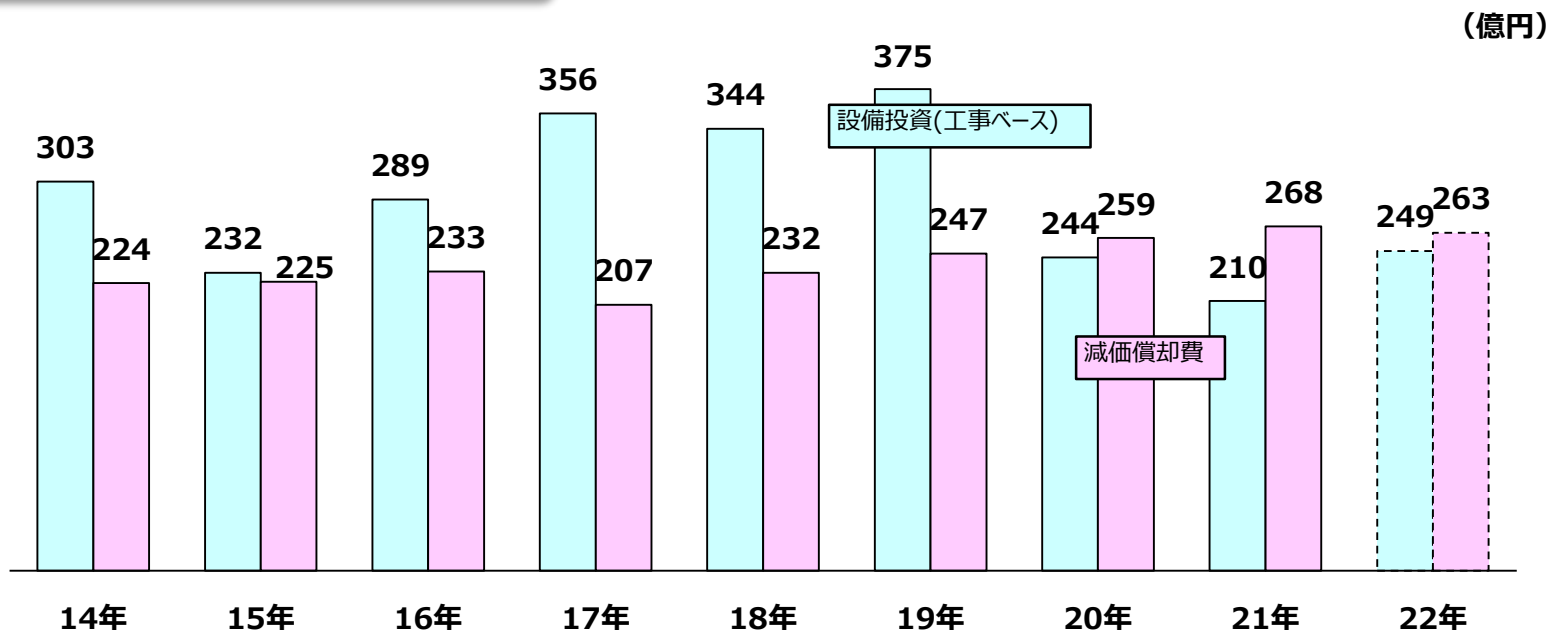


配当は、足元の財務状況や今後のカーボンニュートラル対応の投資、またグループ通算制度の適用影響などを総合的に勘案し、**中間100円・期末100円の合計200円**といたします。

■ 設備投資

- 戦略投資(コスト・生産性改善による既存事業の強靱化/CO2削減)と事業基盤再構築投資を推進。
- IT投資については、スタッフの業務改善や働き方改革、DX基盤準備を中心に実施。

設備投資・減価償却費推移



トピックス

■ 中期計画目標と2022年度業績予想

- **営業利益、ROEは22年度で中期計画を達成**する見込。
- 一方で、営業キャッシュ・フロー悪化に伴い有利子負債が増加。D/Eレシオは目標値に届かず。

	23中期目標	22年度計画	進捗状況
営業利益	400億円以上	450億円	達成見込
自己資本利益率 (ROE)	8.0%	10.0%	達成見込
D/Eレシオ	0.5	0.66	有利子負債増加見込 目標値に届かず
投資3年累計 (決裁ベース)	850億円	850億円	計画通り進捗中
鋼材売上数量	1,200千トン	1,090千トン	自動車関連需要減で 目標を下回る数量

1. 成長分野のビジネス拡大

CASE※(自動車)、半導体関連製品、
グリーンエネルギー分野等

次期重点成長商品 に注力

CNに貢献する
エンジニアリング

2. 事業体質の強靱化

外部環境変化への **耐性強化**
(既存事業のプレゼンス拡大)

3. 海外展開拡大

東アジア市場を中心に
高機能材拡大

・高機能ステンレス鋼 ・高合金 ・工具鋼

自由鍛造品
ビジネスの拡大

4. ESG経営

- 持続可能な経営に向けた
CO₂排出量削減
- **ガバナンス強化**

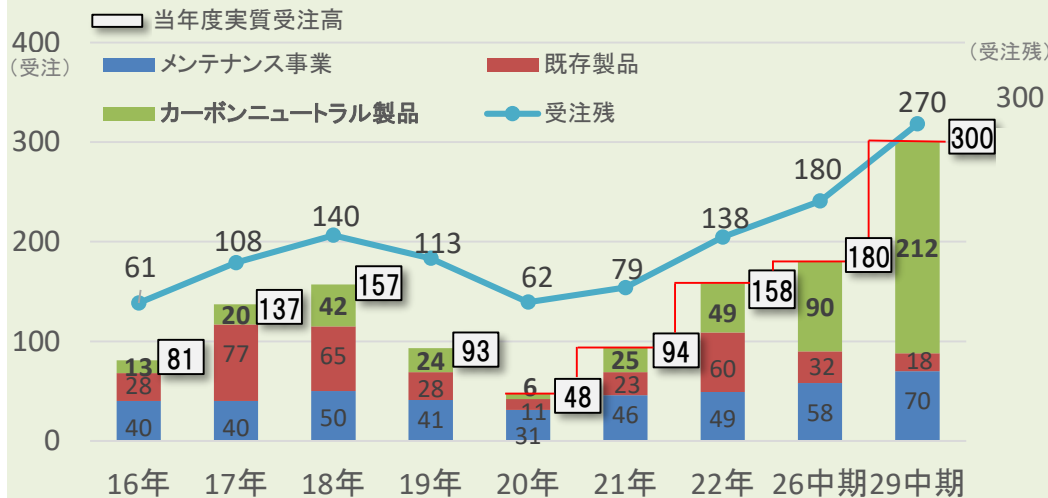
統合レポートの発行

※CASE: **C**onnectd (コネクテッド) **A**utonomous (自動運転) **S**hared & **S**ervices (シェアリングとサービス) **E**lectric (電動化)

成長分野のビジネス拡大 エンジニアリング関連

脱炭素社会の実現へ向けたニーズを背景に2030年に向けて事業拡大を目指す。
電炉など低CO₂先進設備の受注拡大と次世代CN製品の開発推進により世界ニーズに対応

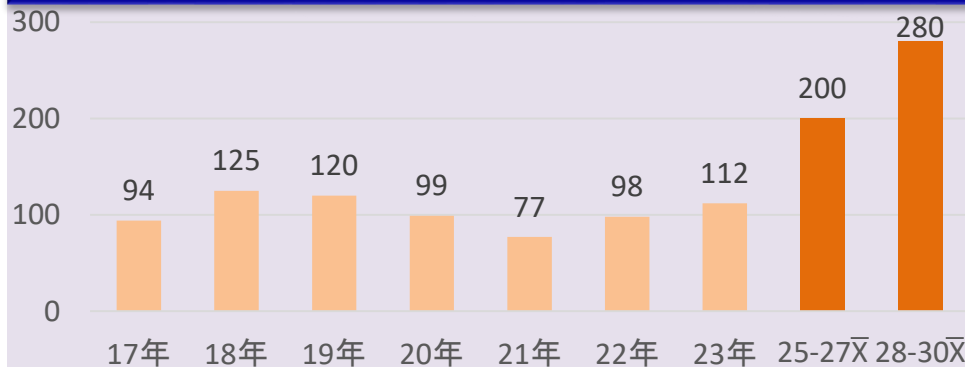
エンジニアリング事業 受注実績及び計画 (単位：億円)



受注拡大

- **省エネ先進製品**
 - 経産省、省エネ先進設備認定 全122件中11件
- **CN新技術**
 - 電気炉技術の深化（大型化・原料多様化対応）
 - 水素燃焼バーナーの実用化（既設設備適用）
 - メタネーション技術の活用（工業炉用途探求）
- **新市場 地域/分野**
 - 下水汚泥炭化技術の高度化・高付加価値化
 - アジア地域の連携強化
- **DX技術搭載製品のビジネス化**
 - デジタル技術を活用したメンテサービス拡大

エンジニアリング事業 売上実績及び計画 (単位：億円)



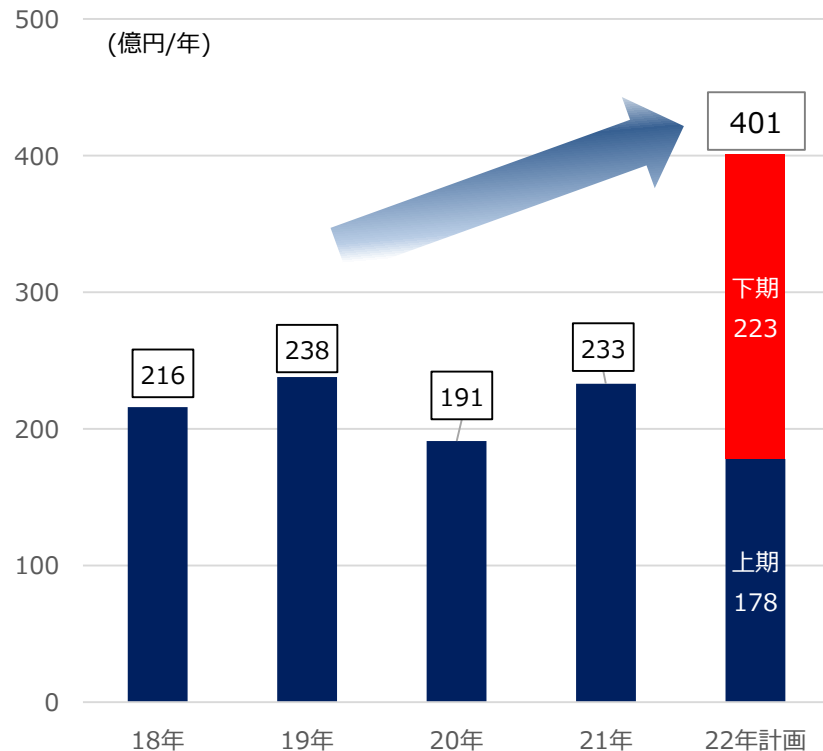
もの作り基盤強化

- **人的リソース**
 - グループ内人員の活用と再配分
- **国内・海外ビジネスネットワーク**
 - ASEAN人材の設計外注活用
 - 海外製造・グループ工事外注の連携
- **デジタル革新によるもの作り**

海外展開拡大 自由鍛造品ビジネスの拡大

- エネルギー関連（重電・掘削）や環境対応（船用バルブ）などで需要拡大。輸出割合も高いことから円安環境も追い風。
- 主要生産拠点の渋川工場（群馬県）はフル生産継続。

自由鍛造品売上高



■ 重電

カスタービンは、石炭火力代替や再生可能エネルギーの調整電源用として堅調に推移。

■ 船用バルブ

環境規制の高まりにより、当社開発のNi基合金(耐高温)バルブの採用が拡大。海外輸送ニーズの増加もあり、需要伸長。

■ 掘削

欧州では電力不足による稼働制限等もあり当社への受注が増加。円安環境も追い風。

ESGの取組み 統合レポート2022の発行

- 「統合レポート2022」を発行（2022年9月30日）
英訳版も2022年12月発行に向けて準備中
- ESG説明会を12月19日（月）に開催予定



グリーン社会の実現に貢献し、持続的な企業価値向上に向けた当社の取組みをまとめております。

<https://www.daido.co.jp/sustainability/data/report/index.html>

Daido Steel Way

大同特殊鋼グループは、ありたい姿や行動の拠り所などを体系化した Daido Steel Way（理念体系）の実践によって企業価値を高めていきます。

Beyond the Special



特殊鋼のリーディングカンパニーとして、「特殊を超える価値」を提供し、未来を切り拓きます

特殊鋼とは、その名の通り特殊な性質を持った鋼（はがね）のことで、鉄スクラップをリサイクルすることで、再び鋼に命を吹き込み、新たな製品へ生まれ変わらせたものです。また、製品の軽量化、高強度化、高耐食化、高寿命化等に貢献し、普通鋼では耐えられないような過酷な状況下で使用され、人々の生活や社会の発展を支える存在でもあります。

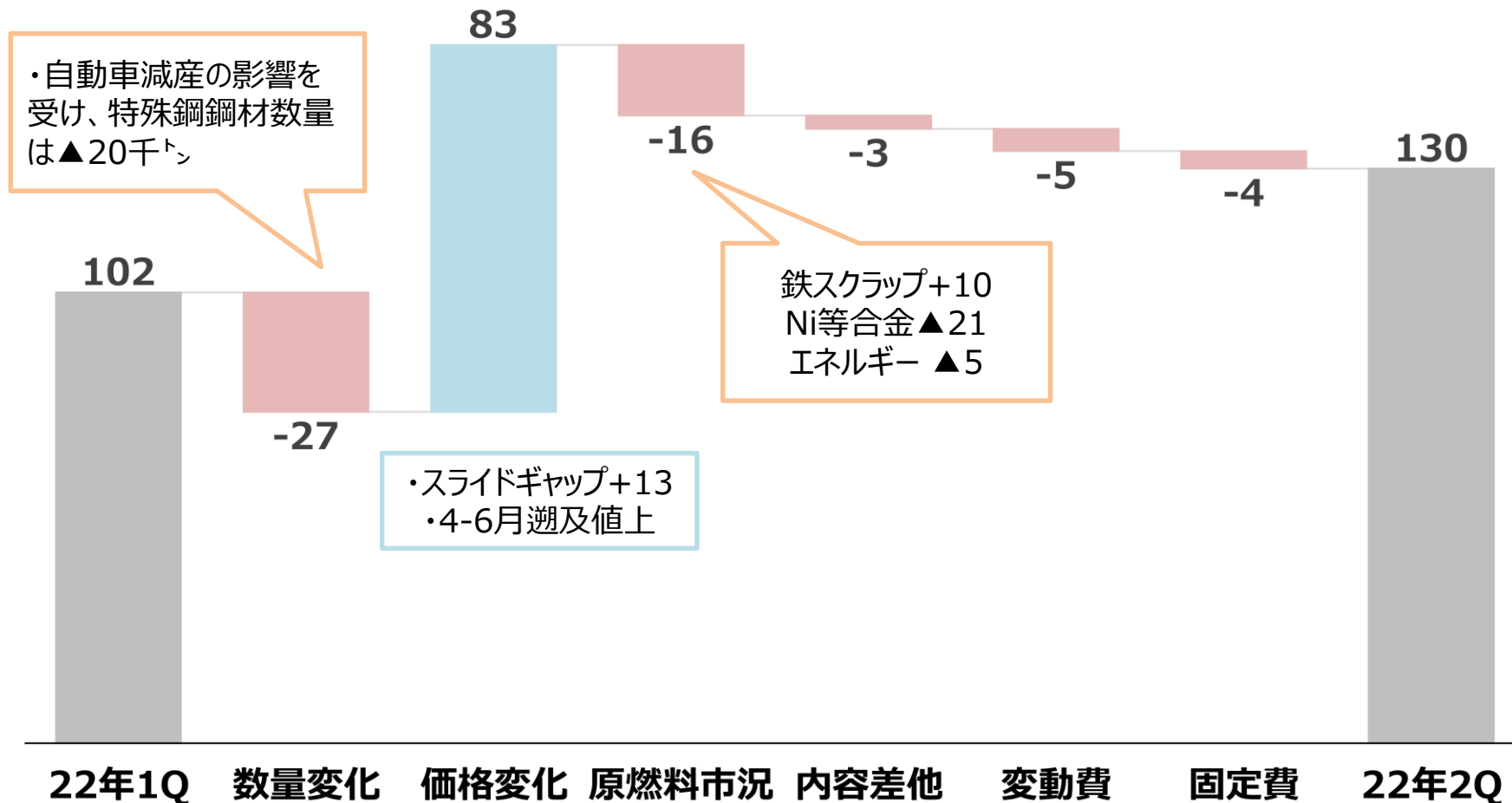
大同特殊鋼グループは「特殊を超える価値」を提供していくことで、ステークホルダーの皆さまとの共創を通じてグリーン社会の実現に貢献し、持続的な企業価値向上を目指します。

参考資料

22年2Q 営業利益の変化要因(前四半期差)

(億円)

営業利益変化要因 (前四半期差)



Fact Book

Fact Book 業績のハイライト

連結

(百万円)

	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	17/9	18/9	19/9	20/9	21/9	22/9
売上高	505,219	543,255	490,421	412,722	529,667	241,119	269,643	252,476	179,490	255,224	281,857
営業利益	36,218	33,815	24,768	10,070	36,982	18,726	16,752	13,711	▲3,531	19,156	23,225
経常利益	36,130	34,343	24,298	12,642	39,200	18,320	17,569	13,711	▲2,112	20,556	24,092
当期純利益	23,920	21,182	10,987	4,516	26,894	11,890	10,759	11,257	▲2,318	12,840	18,294
研究開発費	5,419	5,638	6,002	4,722	5,785	2,770	2,788	2,896	2,185	2,694	3,092
設備投資額(計画)	38,600	37,200	25,300	12,500	25,500	20,300	18,800	15,100	7,500	13,150	9,000
設備投資額(工事)	35,605	34,413	37,529	24,448	21,027	14,899	15,027	22,092	13,955	10,172	11,077
減価償却費	20,740	23,171	24,662	25,912	26,797	10,023	11,453	12,022	12,794	13,469	12,988
金融収支	995	1,606	1,297	806	1,326	429	584	656	459	693	828
総資産	642,021	650,697	625,899	665,506	728,187	614,828	661,998	651,112	621,997	686,373	757,206
自己資本	284,435	285,508	273,561	303,143	329,713	274,221	291,948	293,276	276,815	315,674	343,043
有利子負債	160,352	174,998	193,881	198,812	229,090	157,201	174,928	185,536	207,302	210,608	250,076
従業員数(人)	11,873	12,421	13,436	13,109	12,605	11,843	12,559	13,775	13,474	12,838	12,668
ROA(%)	5.9	5.3	3.8	2.0	5.6	6.2	5.4	4.2	▲0.7	6.1	6.5
ROE(%)	8.8	7.4	3.9	1.6	8.5	8.9	7.5	7.8	▲1.7	8.3	10.9
連結子会社数	36	38	65	66	62	36	38	65	68	65	62
(持分法適用会社外数)	(6)	(6)	(9)	(9)	(8)	(6)	(6)	(9)	(9)	(9)	(8)
連単倍率(倍)											
売上高	1.6	1.6	1.6	1.7	1.5						
経常利益	1.7	1.4	1.2	1.4	1.6						
当期利益	1.6	1.3	1.0	0.7	1.2						

* 減価償却費は長期前払費用含まず。当期純利益は15年度以降、親会社株主に帰属する当期純利益

Fact Book セグメント別売上高・営業利益

連結

<新セグメント(12年4月~)>

(億円)

		18/3	19/3	20/3	21/3	22/3
特殊鋼鋼材	売上高	1,868	2,078	1,817	1,458	1,978
	営業利益	65	60	52	▲ 26	38
機能材料・磁性材料	売上高	1,708	1,846	1,674	1,494	1,976
	営業利益	222	207	136	122	267
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	1,063	1,099	973	808	925
	営業利益	30	23	4	▲ 21	50
エンジニアリング	売上高	249	275	266	202	182
	営業利益	18	23	30	8	▲ 13
流通・サービス	売上高	164	135	174	165	236
	営業利益	27	25	26	18	28
合計	売上高	5,052	5,433	4,904	4,127	5,297
	営業利益	362	338	248	101	370

(億円)

		17/4-9	17/10-3	18/4-9	18/10-3	19/4-9	19/10-3	20/4-9	20/10-3	21/4-9	21/10-3	22/4-9
特殊鋼鋼材	売上高	903	965	1,020	1,058	971	846	598	860	932	1,046	1,028
	営業利益	48	17	21	39	32	20	▲ 30	4	15	23	42
機能材料・磁性材料	売上高	811	897	927	919	847	827	648	846	948	1,028	1,096
	営業利益	108	114	114	93	70	66	22	100	139	128	134
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	517	546	554	545	499	474	361	447	465	460	495
	営業利益	11	19	11	12	6	▲ 2	▲ 41	20	31	19	34
エンジニアリング	売上高	105	144	126	149	124	142	103	99	87	95	83
	営業利益	7	11	8	15	15	15	5	3	▲ 7	▲ 6	4
流通・サービス	売上高	75	89	69	66	84	90	85	80	120	116	117
	営業利益	13	14	14	11	14	12	9	9	14	14	18
合計	売上高	2,411	2,641	2,696	2,737	2,525	2,379	1,795	2,332	2,552	2,745	2,819
	営業利益	187	175	168	170	137	111	▲ 35	136	192	178	232

(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。